

議

会

だ

よ

り

No.141

平成18(2006)年11月14日発行

しすい

編集・発行/酒々井町議会

〒285-8510 千葉県印旛郡酒々井町中央台4-11 ☎043-496-1171

<http://www.town.shisui.chiba.jp/contents/gikai/>



中学生模擬議会

9月定例会のあらまし

9月定例会は9月7日から8日間の会期で開催されました。
 町長より議案10件、議員より議案3件が提出され、審議した結果
 それぞれ原案のとおり可決・同意されました。(2件は継続審査)
 一般質問は15名の議員が、2日間にわたり行いました。



詳細については14ページ



9月定例会

平成18年度各会計補正予算などを可決・・・P2

町政を問う 議員15名が一般質問・・・P5～P13

町議会議員定数は16名に 最終報告・・・P14

決算に関する2議案は継続審査

各会計補正予算6議案など可決



第1回酒々井町スポーツ・レクリエーション祭（綱引き大会）

平成18年9月議会で可決された議案は次のとおりです。

◇町国民健康保険条例の一部改正について

国の医療制度改革に伴い、健康保険法等の一部が改正されたことにより、町国民健康保険条例を改正するものです。

一般会計

◇一般会計補正予算（第2号）

補正の主な内容は、障害者自立支援法施行に伴う事務事業の移行に係るもの、役場庁舎等の改修工事費、町道の維持管理に係る工事費、平成17年度決算額の確定に伴う一般会計・特別会計間の繰入れ繰出し、普通交付税、及び臨時財政対策債等の確定に伴うものです。

特別会計等

◇国民健康保険特別会計補正予算（第1号）

◇下水道事業特別会計補正予算（第2号）

◇老人保健特別会計補正予算（第2号）

◇学校給食センター事業特別会計補正予算（第2号）

◇介護保険特別会計補正予算（第1号）

各特別会計の補正予算の主な内容は、制度改正に伴うものや、平成17年度決算額の確定に伴うものです。

◇教育委員会委員の任命につき同意を求めることについて

教育委員会委員の坪内東公氏が任期満了となることから、再任するにあたり同意を求めらるるものです。

議員発議によるもの

◇町議会議員の定数を定める条例の一部改正について

◇町議会委員会条例の一部改正について

◇宗吾機場の大規模修理、更新に関する意見書の提出について

人権擁護委員に

星野 建一郎氏

人権擁護委員の候補者として、星野建一郎氏を法務大臣に推薦するため意見を求められたもので、審議の結果、適任と決定しました。

平成18年度 補正予算額

(単位：千円)

会計名	補正前	9月補正額	補正後
一般会計	4,983,668	70,479	5,054,147
国民健康保険	1,651,616	69,935	1,721,551
下水道事業	433,378	16,061	449,439
老人保健	1,029,792	18,745	1,048,537
学校給食センター事業	184,628	1,651	186,279
介護保険	799,541	27,382	826,923

反対討論(要旨)

地福美枝子議員 議案第1号、第4号に反対する。

高齢者の負担増、そして身体障害者の負担に係わる内容を含んでいる。少子化に関する支援はあるが、その分、他を削減することは身近な自治体が暮らしを守るという点で前向きな援助を望んでいる中、残念な手法である。

小坂町長より5件の行政報告がありました。(要旨)

印旛沼関連事業市町村連絡会議について

利根川新放水路計画は、国土交通省河川局で平成18年2月に利根川水系河川整備基本方針が策定されました。この中で、治水対策として利根川の洪水を一時的に分流させる放水路(将来的に毎秒1,000トンを利用)を利根川↓長門川↓印旛沼↓新川↓花見川↓東京湾)を位置づけ、これを受けて河川整備計画の策定作業を行っている状況です。

この新放水路計画は、印旛沼周辺の内水被害の軽減や水質改善が期待されます。

一方、印旛沼を中心とする本地域の農業利水施設は、国営干拓事業(昭和21年から43年)により整備されましたが、営農の変化や都市化の進展などによる地域の変貌のなか、施設の老朽化による維持管理費の増大、湛水被害の発生、水質の悪化など様々な問題が生じております。

そこで、経済的で環境との調和に配慮した施設の更新が必要

であることから、平成22年度事業着工に向けて、国営かんがい排水事業印旛沼二期地区の事業計画(案)の作成等が行われています。

このような状況から、印旛沼に關係する成田市、佐倉市、印旛村、本埜村、栄町、酒々井町による市町村長会議をこれまで2回開催し、両計画の事業区域重複の課題、さらに農林事業で市町村及び農家負担への影響など重要な内容であるため、その対応について協議を行いました。

その結果、両事業とも国の直轄事業であることから組織化して広域的に対応していくことが必要という結論となり、8月29日に印旛沼関連事業市町村連絡会議が設置されました。

今後は、両事業への課題等の対応に取り組んでいきます。

子育て支援について

平成17年6月からJR酒々井駅東酒々井側の駅前設置、運営されている認可外保育施設「わらべの森」が、平成18年9月末をもって閉園されると聞いています。突然の閉園による保護

者の衝撃は大きなものがあり、応急的な保育需要に対応できる施策の必要性を痛感しました。

そこで町は、今後の子育て支援策の基本的方向として、町立保育園への待機児童の解消や子育て負担の解消を図る一助とすべく、また、協働のまちづくりの観点から、次の2事業に取り組みことを考えています。

1点目は、保育者の自宅等で少人数の児童の保育を行う家庭的保育事業の推進です。具体的には、保育士や看護師の資格等一定の要件を備えた保育者、いわゆる子育てを終えた主婦などの人材を登録し、保育を希望する保護者に紹介する制度を当面の間の緊急避難的措置として創設します。

2点目は、町立保育園の時間外保育の延長と保育料の見直しです。保護者の要望を踏まえ、平成19年4月から現行の時間外保育の時間を更に延長するとともに、今まで時間外保育は無料でしたが、受益者負担や公平性の観点をから時間外分の保育料を新たに徴収させていただく一方で、保護者の負担の軽減を図るため、現行の保育料を見直

しします。

(財)千葉県福祉ふれあい財団の解散に伴う酒々井ちびっこ天国の廃止について

酒々井ちびっこ天国は千葉県福祉ふれあい財団の解散により今シーズンの営業をもって廃止されます。

町内にある代表的な集客施設であると同時に、長年にわたり子供たちに親しまれてきた社会体育施設の機能をもつプール施設としての観点から、庁内に検討会を立ち上げ、可能な限り存続することの是非を前提に検討、協議を行ってきました。

その結果、町の基本的な方針として、施設の運営に当たり改修に必要な経費、施設の老朽化等により運営ができなくなった場合の施設取り壊し費用及び防災上の観点からみた跡地整備に係る事業費等を県が負担できるかどうかを要望しています。

今後は、県から提示される条件と県の意向を確認するとともに、様々な方のご意見を参考として、最終的な判断をさせていただきますと考えています。

酒々井IC整備の進捗状況について

6月19日には酒々井町地先の関係者、また6月20日には富里市地先の関係者を対象とした酒々井ICの説明会が県の主催で開催され、事業概要の説明が行われました。

その後、町民に一層のご理解をいただくため、「(仮称)酒々井インターチェンジ及び酒々井南部地区新産業団地について」のQ&A形式による資料を7月21日、全世帯に配布しました。

現在、県で用地測量を実施するため事前の現地調査に入っており、9月下旬頃から関係地権者との境界立会いが実施される予定です。

今後、県と用地事務委託契約を締結し、年明けには用地取得に入る予定で進められています。

なお、懸案でありましたバイパスの防護方法についても、関係機関と協議を行いながら、現在、ICにかかる詳細設計が進められています。

このほか「酒々井町スポーツ・レクリエーション祭の開催について」報告がありました。

平成17年度 各会計決算の状況

(単位：千円)

区 分	平成17年度		平成16年度		
	歳入	歳出	歳入	歳出	
一般会計	5,192,493	5,082,211	5,937,772	5,761,375	
国民健康保険特別会計	1,691,615	1,617,914	1,528,367	1,336,791	
下水道事業特別会計	448,605	430,545	474,296	453,293	
住宅新築資金等貸付事業特別会計	12,372	11,723	27,259	26,776	
老人保健特別会計	1,033,164	1,012,971	1,095,417	1,094,667	
学校給食センター事業特別会計	185,191	181,602	185,440	181,998	
介護保険特別会計	718,080	675,699	689,271	658,435	
水道事業会計	収益的収入及び支出	516,326	437,618	525,491	462,439
	資本的収入及び支出	26,137	292,782	24,441	196,032

◆平成17年度酒々井町一般会計及び各特別会計歳入歳出決算の認定
 ◆平成17年度酒々井町水道事業会計決算の認定
 9月定例会に上程された決算関係の2議案は、6名の委員で構成する決算審査特別委員会を設置し、これに付託の上、閉会

決算に関する2議案は決算審査特別委員会を設置し、継続審査とすることになりました。

審査状況については、次号でお知らせします。

委員長 秋本 和仁
 副委員長 越川 廣司
 委員 木村 亨
 委員 原 義明
 委員 竹尾 忠雄
 委員 山口 昌利

中の継続審査とすることに決定しました。
 なお、委員の構成は次のとおりです。

議案と議決結果（町長提出のもの）

番号	件 名	付託委員会	本会議の議決結果
1	酒々井町国民健康保険条例の一部を改正する条例の制定について	教育民生	原案可決 ○
2	平成17年度酒々井町一般会計及び各特別会計歳入歳出決算の認定について	決算審査特別委員会	閉会中の継続審査
3	平成17年度酒々井町水道事業会計決算の認定について	決算審査特別委員会	閉会中の継続審査
4	平成18年度酒々井町一般会計補正予算（第2号）	※	原案可決 ○
5	平成18年度酒々井町国民健康保険特別会計補正予算（第1号）	教育民生	原案可決 ◎
6	平成18年度酒々井町下水道事業特別会計補正予算（第2号）	経済建設	原案可決 ◎
7	平成18年度酒々井町老人保健特別会計補正予算（第2号）	教育民生	原案可決 ◎
8	平成18年度酒々井町学校給食センター事業特別会計補正予算（第2号）	教育民生	原案可決 ◎
9	平成18年度酒々井町介護保険特別会計補正予算（第1号）	教育民生	原案可決 ◎
10	教育委員会委員の任命につき同意を求めることについて	なし	原案同意 ◎

議案と議決結果（議員提出のもの）

番号	件 名	提出者	本会議の議決結果
1	酒々井町議会議員の定数を定める条例の一部を改正する条例の制定について	篠原岩雄 議員 他5名	原案可決 ◎
2	酒々井町議会委員会条例の一部を改正する条例の制定について	篠原岩雄 議員 他5名	原案可決 ◎
3	宗吾機場の大規模修理、更新に関する意見書の提出について	竹尾忠雄 議員 他3名	原案可決 ◎

◎は全員賛成、○は賛成多数、×は賛成少数です。（※）は総務・教育民生・経済建設の各常任委員会に担当分野を付託しています。

請願の審査結果

請願番号	件 名	請願者名	付託委員会	本会議の議決結果
請願第3号	酒々井町排水路整備事業計画の推進についての請願書	印旛沼土地改良区 酒々井支区長 大谷良司 他2名	経済建設	採択 ◎
請願第4号	「農地・水・環境保全向上対策」に関する請願書	成田市農業共同組合 代表理事組合長 谷 旬	経済建設	採択 ◎
請願第5号	駅前保育園わらへの森閉園に伴う緊急支援に関する請願書	北浦剛 他10名	教育民生	採択 ◎

◎は全員賛成、○は賛成多数、×は賛成少数です。

町の考え

そこが知りたい



一般質問は、町の行財政全般にわたって、執行機関に疑問点をただし見解を求めるものです。

9月定例会の一般質問は、13日と14日の2日間に15名の議員が、酒々井インターチェンジと酒々井南部地区産業団地、酒々井ちびっこ天国など、行政全般にわたり今後の対応策などについて、活発な質問を行いました。

「議会だより しすい」に掲載されている内容は紙面の都合上、要点のみとなっています。詳細については、町立図書館（プリミエール酒々井内）で会議録をご覧ください。また、インターネットでもご覧いただけます。9月定例会の会議録は、12月下旬以降、閲覧することができます。

問

南部地区新産業団地の関連事業は優先順位をつけては

答

優先順位をつけ、段階的整備手法を取り入れたい

森本 一美 議員

問 南部地区新産業団地について、次の点を伺う。

1、厳しい財政状況の中で酒々井ICや南部新産業団地を推進するには、多くの関連事業を実施するわけだが、関連事業は優先順位をつけて実施すべきと思うが如何か。

2、都市再生機構による立替施行によって整備すると聞いているが、すべてを都市再生機構に頼らず、町の財政状況に応じた事業の推進、また地元業者育成の観点からも町が主体的に取り組むべきと思うが如何か。

3、税収7億円が期待できるとしているが、その根拠は。

町長

1、厳しい財政状況の中で事業を計画し実施するため、関連事業の優先順位を決めた上、段階的整備手法を取り入れた施行を考えている。

2、十分な検討を行い、主体的に事業を進めていきたい。最優先としてインターアクセス道路の整備がある。

参事

3、提示された計画から想定すると、

酒々井ICについて

問 酒々井ICは地元説明会の実施、県と町の役割分担などを協議していると聞いているが、その後の進捗状況について伺う。

町長 住民説明会では国道296号の渋滞がさらにひどくなるのではとの意見があった。これに対し県から20年後の将来予測をしており、周辺道路ネットワークや交差点部分での右折レーンの整備で渋滞は緩和されるものと考えていると回答された。

災害時の相互援助協定について

問 災害時における相互援助協定等の町村の連携について、町の考えを伺う。

町長 既に個別に相互応援協定を結んでいるが、新たに広域的かつ優れた資機材を保有する自治体との双方向の援助協定締結を検討していきたい。

問 第3期基本計画にあたり総合的な景観形成を進めては

答 景観法に基づいた景観計画を検討していきたい

越川 廣司 議員

問 第3期基本計画の策定にあたっては、各地域の特性を活かしたまちづくりが大切である。その中で、景観法に基づき総合的な景観形成を進めることも重要な要素と考えるが、景観法に対しての町の考え方、特に本佐倉城跡周辺整備を含めて町の考えを伺う。

また、当町で景観法にて整備をされたほうが良いと思われる地域は何か所あるのか、その地域と内容についても併せて伺う。

町長 当町は田園風景と住宅地が調和して作り出す優れた空間が形成され、当町の特性と資源になっている。

町と地域の特性や資源を活用するグランドデザインとその施策は重要なことから、第3期基本計画で景観法に基づいた景観計画を検討していきたい。

教育長 景観を文化財として守り、育て、活用していくことは当町にとって重要なことから、史跡本佐倉城跡やその周辺、谷津と田園風景の残る上岩橋や馬橋地区などを対象に「文化的景観」の基本的な調査を第3期基本計画のなかで実施していくことを検討している。

問 中川河川の水害対策の要となる調整池の進捗状況は

答 中川流域防災事業として国庫補助されるよう県と調整している

木村 亨 議員

問 平成16年9月4日の集中豪雨により中川が増水氾濫し、大きな被害があったことは、まだ記憶に新しいところである。国の平成19年度予算概算要求でも、都市の浸水被害を軽減するなど豪雨災害の対策強化に取り組んでいる中、中川の治水対策の要となる調整池の位置づけと進捗状況について伺う。

また、治水対策や環境対策の一環として、雨水を地中にしみ込ませるなどして地下水が自然にしみ込むように図り、酒々井のおいしい水を守る水循環系の再生を促すために、中川流域を中心に町全体で取り組んでは如何か。さらに、必要に応じて「(仮)酒々井町水循環系再生条例」等の制定を検討しているかどうか、町の考えを伺う。

町長 進捗状況としては、中川流域防災事業として国庫補助事業として採択されるよう、県との調整を行っている。この事業は、遊歩道や水辺環境の創造を考慮した調整池の計画に加え、流域に降った雨水を一時的に貯め(貯留)、地中にしみ込ませる(浸透)など、地下水の涵養をはかりながら、水

循環系再生に取り組み「酒々井のおいしい水」を守ることなど総合的な治水対策を計画し進めているところである。提案の条例は、第3期基本計画との調整を図るとともに、引き続き県の指導を受けながら研究していきたい。

酒々井ちびっこ天国について
問 酒々井ちびっこ天国は、町民や近隣市町村の方々に親しまれ、今まで果たしてきた役割は大きいものがあつたと思われる。施設はまだ残っていることから、今後の取り扱いについて町の考えを伺う。

町長 施設の改修費や取り壊し費用等、県からの負担があることを前提に、施設の引き受けを考慮したい。

参事 現在、県に対して改修に必要な経費、施設の老朽化等により運営ができなくなつた場合の施設取り壊し費用及び防災上の観点からみた跡地整備に係る事業費等を県が負担してもらえらるかどうかが要望している。今後は県から提示される条件と県の意向を確認しながら、最終的な判断をしたい。

問 南部開発・酒々井IC 突然のパンフレット配布にはどのような目的があるのか

答 進捗状況を広く町民に情報提供をすることを目的としている

引地 修一 議員

問 南部地区新産業団地と酒々井IC に関して、突然、回覧で配布されたパンフレットについて、次の点を伺う。
1、このパンフレットは、どういう目的で配布されたのか。

2、突然回覧されたが、町民の反応をどう思っているのか。また、今後どのように町民に知らせていくのか。
3、税収7億円と試算しているが、従業員数、固定資産税などの内訳と、進出企業数は。

4、総事業費42億円のうち町負担25億円、そのうち18億円は地方債で税収7億円から返済していくとしているが具体的な返済計画は。
5、交通量が増大しても、渋滞は通常では発生しない、排気ガスについても問題ないと書いてあるが、その根拠は何か。
6、JR及び京成酒々井駅からのシャトルバス計画の内容は。
7、年間2、000万人来客数が見込まれるとしているが、その根拠は。
8、開発業者が撤退した場合は

町長
1、情報公開の観点から広く町民に情報提供することを目的に行った。

2、問い合わせは7件である。今後も情報公開を基本理念に適時、広報等でお知らせしていく。

6、鉄道利用の誘客、中心市街地活性化にも必要不可欠であり、機構を通じて進出予定事業者に要望していく。

参事

3、従業員数は4、000人、企業数は300社を見込んでいる。

4、立替施行では償還年数20年。起債のみでは一般単独債15年、償還のピークは平成27年から34年で年間約1億6千万円前後と試算した。

5、県の指導に従って、平成37年の将来交通量推計を行い通常での渋滞はないとの結論に至った。自動車排気ガスは法に基づき規制されており、問題は無いものと記載した。

8、撤退はないと考えている。

経済振興課長

7、2つの異なる方法により算出した結果、概ね妥当なものと判断した。

問 南部地区開発 企業の進出中止を想定しているのか

答 都市再生機構も必至で進めており中止は想定していない

山口 昌利 議員

問 南部地区新産業団地は町にとって重要な案件であるが、進出予定の外資系企業が何らかの事情で進出が中止になった場合も想定しているのか伺う。また、その際の手段についても併せて伺う。

参事 都市再生機構も最後のチャンスと認識した上での事業であり必至で進めている。進出が中止になることは想定していない。

酒々井ちびっこ天国について

問 酒々井ちびっこ天国について、次の点を伺う。

1、過去5年間の決算について。
2、町への譲渡申出があったのか。
3、老朽化しているが存続させる手立てと、その場合の費用について。
4、遊園地としての活用について。
5、町が引き受けない場合について。

参事

1、職員人件費と県から受ける修理や改修のための補助金を除くと、平成13年度マイナス306万円、平成14年度1、850万円、平成15年度マイナス680万円、平成16年度1、

060万円、平成17年度1、560万円となっている。

2、町が継続してはという話があった。

3、施設運営に必要な経費や取り壊し費用等の負担を県が支出できるかどうか大きな判断材料となる。

4、今後の課題としている。
5、当初の契約どおり、原状に復して土地を返還してもらうこととなる。

中央台と消防署を結ぶ道路について

問 中央台1丁目から消防署に至る道路について、次の点を伺う。

1、道路拡幅等の事情で建設中止となっているが、今後どう対応するのか。
2、中央台、消防署、東酒々井を結ぶ新たな道路整備と、更に酒々井ICまで延伸させてはどうか。

町長

1、必要性は十分認識しているが、厳しい財政状況であることから、引き続き検討していきたい。

2、町内及び広域交通ネットワークとして必要かつ大変有効と考えるが、中期的な視野に立って検討をしたい。

問 廃棄物の処理に関するマニュアルを策定してはどうか

答 町民への周知方法を含めて検討していきたい

平澤 昭敏 議員

問 ごみ袋の変更より半年が過ぎたが、町民からどのような意見が寄せられているのか。小さいサイズのごみ袋に対する要望等はないのか併せて伺う。

また、リサイクルに関する法律がいくつかあるが、それにより廃棄物の処理が多様となり、町民がわかりづらくなっている。具体的に理解できるようなマニュアルを導入すべきと考え、町の考えを伺う。

町長 町民からの意見は特になく、満足いただいていると認識している。袋の容量については、今後の検討課題とさせていただきます。

平成14年に廃棄物処理のため小冊子を作成し全戸配付したが、現在、在庫もなく制度等も変わってきている。処理マニュアル作成の必要性は認識しており、町民への周知方法を含め検討していきたい。

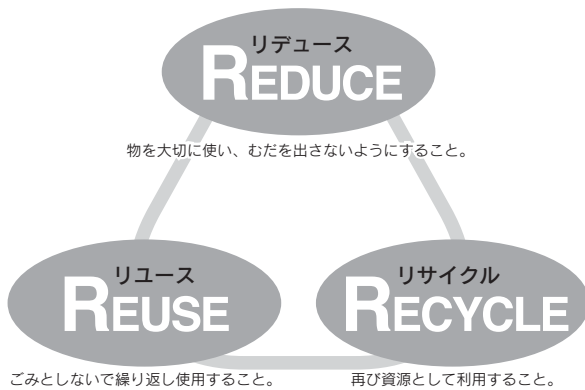
ことばの発達が遅い子どもについて

問 1歳6ヶ月児健康診査や3歳児健康診査でことばの発達が遅い子どもを見つけても、就学時検診まで何も手が打てないのが現状である。3歳児から

就学時検診まで及び就学時検診から入学までのケアについて、それぞれのように取り組んでいるのか伺う。

町長 3歳児健康診査後に発音障害や吃音等について発見されることが多いので、保育園や幼稚園とも連絡を取り合うとともに、母親からの相談で把握し対応するようにしている。

児童の就学にあたっては、必要に応じて教育委員会と連携して対応していきたい。



問 自立のためのまちづくり推進会議 方向付けができた項目は

答 12月頃を目途に提言書を頂く予定である

永井 勝 議員

問 「自立のためのまちづくり」に関する諸般の計画や実施項目の具体的な成果について伺う。

小坂町長就任以降「協働のまちづくり」のスローガンの下、町民の町政への参画、協力の推進のため「自立のためのまちづくり」及び「安心・安全のまちづくり」の両推進会議の立ち上げをはじめとする町民との対話路線、また役場組織の改編、新設による施策の効率化など、町民へのサービス向上を目指した路線など、大いに期待されているわけだが、これまでに明らかにした成果、具体化された事業、方向付けができた項目について伺う。

町長 自立のためのまちづくり推進会議では4回の会議を開催し、①町の行財政関係として「経費の削減」「財源の確保」、②協働関係として「住民参加」「パートナーシップ」「人づくり」「自治会」③町産業関係として「農業の自立」「産業育成」「後継者育成」④観光として「観光施設の整備」⑤福祉として「高齢者の自立支援」「高齢者に優しい町」⑥教育として「小中一貫



精力的に協議されている「自立のためのまちづくり推進会議」

教育」「生涯教育の充実」などのご意見をいただいている。

今後、大きな柱と項目を委員皆さんで決定し、項目ごとに更に一歩踏み込んだ意見等を取り交わしながら、12月頃を目途に提言書を頂く予定である。

問 酒々井コミュニティプラザ 町の大きな負担となっているのでは

答 民間委託や指定管理者制度などの活用を検討し効率的な運営を図る

江澤 眞一 議員

問 酒々井コミュニティプラザについて、次の点を伺う。

1、平成17年度の利用状況について伺う。また、利用人数が減少していると思われるが、ピーク時に比較してどのくらい減少しているのか併せて伺う。

2、平成17年度予算では収入680万円に対し、支出が2、038万5千円となっている。さらに職員1名を加えると更に支出は多くなると思われる。様々な見直しを行っている中、大きな負担となっていると考えるが町の考えを伺う。また委託等を考えているのか併せて伺う。

3、多目的ホールを増設して町体育館としてはどうか。

町長 平成18年度予算では経費の徹底した縮減を図り、経常経費予算では対前年度比380万4千円の減額を行っている。

経常経費の縮減は限度があるので、ハーブガーデンとの一体的な運営・利活用を検討し、多くの人が訪れる施設づくりを目指すとともに、民間委託や

指定管理者制度の活用などを検討し、効率的な運営を図っていきたい。

多目的ホールの増設は、施設の設置目的が酒々井リサイクル文化センターの地元還元施設として建設されていることから、清掃組合や構成市とも協議を行う中で機能の充実を検討していきたい。

経済振興課長 利用者が最も多かったのが平成8年度で6万9、860人、平成17年度は5万3、016人の利用となっており、24%の減となっている。内訳は浴室利用者8、614人、和室利用者4、959人の減である。



酒々井コミュニティプラザ

問 南部開発 来客数2、000万人の根拠は

答 異なる2つの想定集客数が近似値のため概ね妥当と判断した

菊地 宏 議員

問 町は7月21日に「酒々井IC及び酒々井南部地区新産業団地について」という広報を通じ住民に説明を行った。

この広報の中でQ20の取り上げ方に、町がどのようにこの問題に対して取り組もうとしているのか、町の立場及び方針が全く欠けているといっても

過言でない。文中に、「開発事業者の見込みによると…」：「2千万人が見込まれる…」と記載されているが、以下の点について具体的に伺う。

1、開発事業者とは誰なのか。
2、「見込みによると」とあるが、その根拠は。
3、「2千万人が見込まれる」とあるが、「他の類似施設」の具体的な客数は。

町長 少子高齢化対策の為の財源確保や地方交付税の減額などによる財源補てんの為にも整備を進めるものである。

参事 見込みの根拠としては、開発事業者が商業コンサルタントに委託して想定したもので、1つは想定する商圏内人口に対する来客割合及び集客力を想定し、来客者割合と来客頻度により算出したもの。もう1つは想定業種の

実績数値をベースに集客力を想定したものである。異なる方法で算出した2つの想定集客力の数値が近似値であるので、集客力は概ね妥当なものであると判断した。この数値は都市再生機構とともに検証を行った。

乳幼児医療費と保育園について

問 乳幼児医療費助成金の年齢引き上げと保育園の入所に対し、町全体の予算はどのくらい必要なのか伺う。

町長 岩橋保育園の定員を9名増員した場合の保育園増築工事費で約1、600万円となる。

健康課長 乳幼児医療費を就学前までに引き上げた場合、概算で2、000万円から2、500万円の増額となる。

エスカレーター設置と中川踏切

問 JR酒々井駅エスカレーター設置と中川踏切の改善について、どのように対応しているのか伺う。

町長 将来的には中川踏切以外の道路整備の検討も必要と考える。

建設課長 JR酒々井駅バリアフリー化はJRと一体の整備が不可欠で、連絡を密に協議していく。

問 酒々井コミュニティプラザ ハーブガーデンとの一体化した施設整備を

答 効率のよい運営方法と併せて総合的に検討した

原 義明 議員

問 酒々井コミュニティプラザは、設備の劣化やメンテナンスの行き届かない現状及び取支の悪化により、思い切った整備の改善をはかる時期にきている。特に2階の入浴施設を1階にすることにより子供から高齢者の方までの利用頻度も高まると考えている。

また、ハーブショップをコミュニティプラザのピロティー部分に移転するなどハーブガーデンとの一体化した施設整備が図れないか、町の考えを伺う。
町長 建築後20年が経ち、施設全体の改修が必要な時期を迎えており、今年度に空調施設の全面改修と屋根の防水工事を実施する。入浴施設の場所の変更やハーブショップ移設などの施設整備は、今後、コミュニティプラザとハーブガーデンの一体的な効率のよい運営方法とあわせて総合的に検討したい。

酒々井ちびっこ天国について

問 酒々井ちびっこ天国の運営廃止に關し庁内検討会が設置されているが、その検討内容について伺う。

町長 6月議会の行政報告のとおり、庁内に検討委員会を設置した。議会に

おける意見も伺いながら対応していきたい。

シルバー人材センターについて

問 7月に高齢者事業団とシルバー設立準備委員会で一本化に向けてミーティングが行われたが、その後、具体的な推進が図られていない。行政としてどのような方向で推進するのか伺う。

町長 町は双方の良いところを併せ持ち、総合力を高め、自主自立の運営を目指した組織を望んでいることから、一本化に対する両団体の問題点や意見を確認し、できる限りの調整を図っていきたくと考えている。また、準備委員会には、現時点でできること、目に見える行動や活動を起こしていただくことも必要ではないかと考えている。

保育園の待機児童について

問 少子化対策や待機児童対策として保育園を1クラス増やすとか保育士の増員はできないのか、町の考えを伺う。

町長 全員が保育に欠ける児童ではなく全員が保育園に入園できるとは限らないので、行政報告のとおり新たな子育て支援等に取り組んでいきたい。

問 受益者負担の原則から公共施設の使用料見直しを

答 住民間の負担の公平性の観点から必要に応じ改定していきたい

小早稲 賢一 議員

問 「入りを量りて出ずるを制す」の原則から財政問題について、次の点を伺う。

- 1、受益者負担の見地から、公共施設の使用料の見直しについて、中でも中央公民館使用料について伺う。
- 2、市街化区域農地の現状及び税制について伺う。また、生産緑地について伺う。

町長

- 1、公平性の観点からなど、必要に応じて改定していきたい。
- 2、面積は約66ヘクタールであり、近隣町村と同様に長い期間をかけて農地の課税を基準としながら、宅地並み課税になるよう税負担の調整措置を続けている。生産緑地は当町が特定市でないため、指定をしていない。

財政課長

- 1、住民間の負担の公平性を考えると、光熱水費程度の負担をお願いすることも必要ではないかと考えている。

保育問題について

問 少子化対策における保育問題について、次の点を伺う。

- 1、駅前保育園わらべの森の閉園にあたり乳幼児を抱える若い家族に対して、どのように対応するのか伺う。
- 2、就学前の教育、保育ニーズに対応する認定こども園が平成18年10月からスタートするが、町としてどのように受けて入れていくのか伺う。

町長

- 1、保護者が独自に場所を確保して運営していくと聞いているので、その動きを見守っていきたい。
- 2、幼稚園と保育園の良いところを活かしながら、その両方の役割を果たすことができるような観点から制定された。子育て支援事業の一層の充実につながるものと期待している。

防犯ボランティアについて

問 防犯ボランティア「ブルドックス」は設立され3年が経過した。町内各所で活動しているが、防犯上の効果について町としてどのように考えているのか伺う。

町長 積極的な活動を続けられており、町の防犯上大きな役割を果たしていることを認識している。

問 県管理の宗吾機場排水ポンプ等をどう認識しているか

答 緊急修繕は必要。その後抜本的な解決を

竹尾 忠雄 議員

問 水害対策について、次の点を伺う。
1、平成4年に中川河川の水害対策に
関する請願が採択されたが、平成16
年9月大雨により床上床下浸水54棟
の被害が発生した。本年度調査費が
予算化されたがその進捗状況は。

2、県管理の宗吾機場は昭和42年に竣
工し今年で39年を迎えた。国の調査
でも事故になる可能性があると思
摘され、排水ポンプが故障すると当
町は甚大な被害が予想される。町長
は住民の生命財産を守るために、県
に対し修理あるいは更新を早急に申
し入れるべきと思うが如何か。また
宗吾機場の施設排水ポンプ等の現状
をどう認識しているのか。

町長 1、現在、中川流域防災事業として財
源確保に向け国庫補助事業として採
択されるよう県と調整をしており、
一日も早い調整池の実現を図ってい
く。
2、この施設は印旛沼低地排水路（中
央排水路）の水位調節の要であり、
維持管理費としてこれまで1億5、

問 国民健康保険税の減免措置の周知を

答 引き続き広報等により周知を図っていく

地福 美枝子 議員

問 国民健康保険税の減免について、
次の点を伺う。
1、法定減免と申請減免制度の周知徹
底を。
2、法定減免の対象者を探し、町から
法定措置を施す必要があると思うが
如何か。

3、申請減免の特別な事情の活用状況
と具体的な基準を設けては。
町長 減免制度は災害により生活が困
難になった者、貧困により生活のため
の扶助を受けている者が対象であり、
引き続き周知を図っていく。
税務課長 納税者個々の主観的な事情
があるので、それらを総合的に勘案し、
著しく担税力を喪失していると判断さ
れるときに行われると考える。

町長 災害に関しては割合が決まっており、
貧困の場合は十分協議し判断します。
生活保護について
問 生活保護の実態と申請について、
次の点を伺う。
1、町の生活保護世帯の状況は。
2、申請書の提出はどのようになって
いるのか。

町長 1、平成18年9月1日現在で、67世帯、
総数95人である。
2、実施機関は県がなっており、町は
その補助機関として申請書の受理や
保護金品の交付等を行っている。

認定こども園について
問 認定こども園について、次の点を
伺う。
1、保育料設定や保育内容など、どの
ようになるのか。
2、町内で認定こども園に意欲のある
幼稚園はあるのか。また、学童保育
とのかかわり方は。
3、無認可保育所の保護者に対する助
成はどのように考えているのか。

町長 1、保育料は施設が設定し徴収する。
保育内容は国の指針を参酌し、県条
例の中で定めることとなる。
福祉課長
2、1園は意思を確認している。学童
保育とは関わりはないと考える。
3、同種の事業を行っている市町村の
状況を調査していきたい。

問 南部開発は町や町民のためにならないのではないかと

答 雇用の確保や財源基盤の確立を図るため事業を進める

岩澤 正 議員

問 町長の政治姿勢について、次の点を伺う。

1、第3期基本計画の策定にあたって、分野別懇談会やアンケート調査のまとめなどを公開し、町民との双方の関係で作業を進めてはどうか。

2、南部地区開発は、町にも町民のためにもならないのではないかと。地域経済の活性化のためと言っているが、郊外型の大型ショッピングセンターが出来て、中心市街地が活性化した地域はどこにあるのか。新たな雇用4,000人のほとんどが非正規雇用になるのではないかと。財政確保の確立を図るためとしているが、税収が7億円増えても町財源は1億7,500万円だけである。借金返済に1億2,000万円、町道の維持管理、シャトルバス運行の町道整備等、逆に持ち出しになってしまうのではないかと。

3、住民税などの税制改正に伴い、町への問い合わせ状況はどのような状況であったのか。

町長

1、第3期基本計画の素案を広報紙やホームページによって公表して町民から意見をいただき、その意見を踏まえながら施策づくりを行っていく。

2、現在、都市計画の変更や進出企業の確定などを進めている。開発許可申請等の前段階で、財源や雇用の確保について話し合われる。

町はICを核とし、地域経済の活性化、新たな雇用の創出及び財源確保の確立を図るため、この事業を進めていく。

企画政策課長

1、現在、整理や分析を行っており、整理ができたものから逐次情報の公開等、町民に知らせていきたい。

税務課長

3、約10日間で一日あたり30件の問い合わせ状況であった。問い合わせの内容は65歳以上の年金控除率の改正及び老年者控除の廃止によるものであった。

問 南部開発は市町村合併の連携を前向き考えていいのか

答 早期完成で合併に頼らない自立のためのまちづくりが実現すると期待

秋本 和仁 議員

問 当面は自立の中での巨大商業ゾーンの完成が、一時的な酒々井町の負担増となっても、包括的観点からは、将来への広域合併に向けた有利な備えともなり得るが、合併と南部開発の有機連携を前向きに把握できないのか伺う。

町長 南部地区新産業団地の早期完成は、産業、商工業を飛躍的に充実発展させ、中心市街地の活性化も期待できることから一刻も早い完成に向けて努力すること、合併に頼らない自立のまちづくりが実現すると期待している。

プリミエール酒々井の財政について

問 町民の文化や学習の拠点となっているプリミエール酒々井の運営収支は、当初の町の計画内なのか伺う。

教育長 運営コストは当初約9,000万円を見込んでいたが、平成18年度予算では約7,900万円と低コストでの運営に努めており、おおむね見込みの範囲内と認識している。

終戦の日(8月15日)の教育について

問 日本人として、8月15日は現代史で特別な意義を持つが、教育的配慮をした指導は如何になされているのか。

教育長 学習指導要領の目標と内容に沿って、事実を正確に捉えることにより、平和について児童生徒が自分の考えを持てるように指導することが大切であると考えている。

職員の一定水準の給与確保について

問 仕事量が増加する中での給与の削減は、職員の仕事に対する意欲を削ぐことにならないのか、考えを伺う。

町長 給与表の引き下げ、管理職手当の減や地域手当の支給停止といった限定的削減を実施しているが、職員の士気の確保も重要と認識している。

防犯パトロール組織と町の関係は

問 安全安心なまちづくりに貢献している防犯パトロール組織と町の今後のかかわり方をどう考えているのか。

町長 防犯情報の提供や情報交換の機会を設けるなど、協力関係を更に築いていくことが重要であると考える。

中川放水路周辺の問題点について

問 危険と安らぎが共存するこの水辺空間の将来の整備計画を伺う。

町長 中川流域防災事業として、県と調整を図っている。

その他の質問

森本一美 議員

- ・ 自立のためのまちづくり推進会議について
- ・ 安全・安心のまちづくり推進会議について

木村 亨 議員

- ・ 印旛沼について
- ・ 高齢者の健康対策について
- ・ 抜本的な酒々井町行政改革大綱の改定について

山口昌利 議員

- ・ 酒々井コミュニティプラザについて
- ・ 信号機設置及びミラーについて
- ・ 道路について

平澤昭敏 議員

- ・ 歩いて暮らせるまちづくりについて
- ・ 幹部交番の状況について
- ・ 発生主義会計への取り組みについて
- ・ ヘルシースクール検診について

原 義明 議員

- ・ 酒々井総合公園の樹木管理について

小早稲賢一 議員

- ・ 酒々井ちびっこ天国について

竹尾忠雄 議員

- ・ 南部地区開発について
- ・ 酒々井ちびっこ天国について

地福美枝子 議員

- ・ 後期高齢者医療制度について
- ・ 介護保険制度の見直しについて
- ・ 職員削減について



議員派遣の件

次のとおり議員を派遣することを決定しました。

印旛郡町村議会議員

自治研修会

目的 議会及び議員活動の研さんを積むため。

派遣場所 印旛郡栄町

期間 平成18年11月17日

派遣議員

引地議員、菊地議員、永井議員、平澤議員、越川議員、木村議員、江澤議員、秋本議員、原 議員、竹尾議員、森本議員、山口議員、篠原議員、石渡議員、地福議員、小早稲議員、岩澤議員

（高崎議長は、議長として出席しますので、派遣議員には名前が入っていません。）

議会運営について、 宮城県利府町議会が来町

8月24日に宮城県利府町議会の議長、議会運営委員会の委員8名が地方議会の活性化について研修するため来町しました。

お互いの議会運営の共通点や違い、問題点等活発な意見交換が行われました。

「しすいふれ愛タクシー」の 取り組みについて、 京都府議会が視察来町

9月12日に京都府議会の総合交通対策特別委員会の委員10名が巡回・デマンド複合型新総合交通システム事業「しすいふれ愛タクシー」について視察するため来町しました。

車両配車システムなど熱心に視察されました。



議

員定数調査特別委員会

町議会議員定数を2名

削減し、16名とする

平成17年12月議会で設置された、議員定数調査特別委員会（篠原岩雄委員長）は、平成18年6月議会で中間報告を行い、更に引き続き慎重に検討を重ね、この度、最終報告が提出された。

ここでは、紙面の都合上、（まとめ）を紹介します。

最終報告

（まとめ・ふさわしい議員定数）

これまで当特別委員会としては、あらゆるケースを考慮しながら議論を重ねてきたところである。

その結果、「2名削減」という意見及び「3名削減」という意見について、それぞれ全委員より意見交換したところ、「2名削減」という声が多数であったことから、最終的に全会一致で酒々井町議会議員の定数を「2名削減し、16名とする」こ

とを決定した。

議員定数については、議員全員にかかわることであり、また、町民の意思の反映にもつながる重要な事項であることから、委員全員の賛同を得て結論に達することが望ましいとの考えのもと、当特別委員会として十分に時間をかけ、議論を重ね、全会一致をもって決定したところである。

また、常任委員会は現状の「総務」「教育民生」「経済建設」の3常任委員会を継続し、新しい委員会定数を「総務6名」「教育民生5名」「経済建設5名」とすることに決定した。

この議決を受けて、当特別委員会では、これからの酒々井町議会にとって適正と考える議員定数を履行するにあたり、「酒々井町議会議員の定数を定める条例」及び「酒々井町議会委員会条例」を改正すべきものと決定した。

町議会議員の定数を定める条例については、次の一般選挙よ

り施行することとし、町議会委員会条例については、次の一般選挙後において、最初に開会される議会の招集日から施行する

こととそれぞれ決定し、調査検討を終了した。
なお、全文は町議会のホームページでご覧いただけます。

中学生模擬議会 を開催しました



10月23日、酒々井中学校の1年生から3年生の代表者14名の中学生議員による、第1回中学生模擬議会が開催されました。

普段町に対して思っている事や考えている事を中学生の視点から一般質問を行い、町の活性化や通学路の安全整備、駅周辺の自転車置き場など中学生議員の皆さんが柔軟な思考で考え、見て疑問に感じている、まさに実体験に基づく質問で、私たち大人がおおいに耳を傾け、参考としなければならぬ内容ばかりでした。

12月定例会のお知らせ

次の定例会は12月初旬に開会する予定となっております。

会期の概要は、11月29日の議会運営委員会で決まります。会期などについては、議会運営委員会の開催日以降、議会事務局までお問い合わせください。

なお、会期の概要が決定したら、町議会のホームページやポスターでもお知らせいたしますのでご覧ください。皆様の傍聴をお待ちしています。

詳しくは議会事務局まで。

TEL 496-1171
(内線251、252)

「会議録」をホームページで公開しています

酒々井町議会では、より多くのおみなさんに町議会の事を知っていただくために、町議会のホームページで「会議録」を公開いたします。

ご覧いただける議会は、平成15年6月定例会から平成18年9月定例会までの本会議です。今後も、順次掲載いたしますのでご覧ください。